

美しい故郷へ

山と川のある城下町の風景は未来への贈りもの

講師 都市計画家 **伊達 美德** 氏 (高梁市御前町出身)

日時 **2012年**(平成24年)**2月5日(日)**

午後1時30分～3時 (午後1時開場)

会場 **高梁市文化交流館 中ホール** (3階)

高梁市原田北町 1203-1 電話 0866-21-0180



●講師あいさつ

高梁を後にして五十六年、いま故郷でお話できるのをうれしゅう存じます。故郷の姿は頭の奥に染みついていることを一〇年前にドイツで経験しました。ハイネルベルグを訪ねて、はじめて来たのにどうも見たことがある気がする、不思議じゃなあと歩きつつ、突然気がつきました。あゝつ、高梁をつくりじゃが〜！。そこも山と川のある盆地の美しい城下町で、懐かしい風景でした。

わたしは各地で都市計画(まちづくり)の仕事をしてきました。そうしていて思うのは、**高梁はなかなか良うできてる街じゃと**いうことです。

日本の地方の街は二十世紀にひろがりすぎたので、人口が減る今はスカスカのスポンジのようになって不便で困っています。ところが高梁は盆地であるおかげで拡散せずに、**コンパクトな街が美しい文化の風景**の中にしつかりといきづいておられます。課題が多い二十一世紀の日本の模範となりうる街です。

七年前から長岡市の山村に、中越大震災の復興支援で仲間と行くようになり、棚田の米つくりや民俗文化の継承を通じて村の存続活動をしております。美しい棚田風景を維持するのは、**超高齢・人口減少時代の日本**では難しいことです。

日本のハイデルベルク・高梁も、日本の人口減少から逃れることはできません。**街は縮んでいく**でしょう。でも考えてみれば、わたしが少年の頃、高梁にはこんなに家もビルも建てこんでいなくても、十分に賑わいがあつて暮らしやすい街でした。むしろ今よりも暮らしやすかつたかもしれません。

美しい文化の風景を、とっ守り、とっ創って、未来へ贈るか、高梁の昔と今の姿、あるいは他の街の姿と比較しつつ、いっしょに考えてつかあさい。

●自己紹介

高梁市御前町にある神社に生れ(1937年)、これまでに東西10都市、18の家に住みました。高梁高校卒業後に東京工大で建築の歴史などを学び、社会に出てからは都市計画あるいは建築計画の専門家として仕事をし、「都市計画家」あるいは「まちづくりプランナー」と称しています。

政府機関や鎌倉・横浜・鯖江など自治体の専門委員、筑波大・東京工大・慶応義塾大学院などの教員、日本都市計画家協会の役員などを歴任し、全国各地の公共団体・商工会議所・企業等の都市計画・地区整備・景観保全・建築企画等のプランづくりをしてきました。

主な著書は「初めて学ぶ都市計画」「街なみ・街づくり」「建築家山口文象・人と作品」など
インターネットサイト「まちの通信」<http://homepage2.nifty.com/darey/>
「伊達な@世界」<http://darey.blogspot.com/>

主催 高梁中央公民館・高梁地域まちづくり推進委員会

後援 高梁市・高梁市教育委員会